


## 令和3年(2021)度 研究サマリー

研究会名称	透析患者における活性型ビタミンDの心血管イベント抑制効果—日本透析活性型ビタミンD試験 (J-DAVID)—													
代表者所属	大阪市立大学大学院医学研究科 血管病態制御学													
代表者氏名	庄司 哲雄													
<p>研究方法・結果</p> <p><b>【研究方法】</b>  ランダム化比較試験として実施した J-DAVID 試験のデータを利用して観察研究に活用するために、研究仮説を公募し、選定された研究課題については統計解析担当が解析を実施し、応募者が筆頭著者となって論文化するという研究方法とした。研究全体としては「J-DAVID ランダム化比較試験の事後解析 (J-DAVID 公募研究)」という研究課題名とし大阪市立大学医学研究科で倫理審査の申請を行い、承認された (承認番号 4420)。</p> <p><b>【結果】</b></p> <p>■研究課題の選定  2019年1月1日～2019年3月31日に公募を行い、5件の応募のうち、2019年4月26日に開催された選考委員会にて、以下の3課題が採用された。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">整理番号</th> <th style="text-align: left;">応募者</th> <th style="text-align: left;">課題名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2019-01</td> <td>井関邦敏</td> <td>透析液 Ca 濃度と生命予後 (2.5 vs. 3.0)</td> </tr> <tr> <td>2019-02</td> <td>坂口悠介</td> <td>活性型ビタミンD製剤介入効果のALP値による層別解析</td> </tr> <tr> <td>2019-04</td> <td>古志衣里</td> <td>透析患者におけるリンの経時情報活用による循環器病発症リスクの推定研</td> </tr> </tbody> </table> <p>■解析結果  それぞれの課題に関して、応募者と統計解析担当者との間で解析内容の詳細について協議し、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあり、解析が遅れたが、2020年10月に解析を完了することができた。3つの研究課題は下記の通り学会発表、あるいは論文投稿中である。</p>			整理番号	応募者	課題名	2019-01	井関邦敏	透析液 Ca 濃度と生命予後 (2.5 vs. 3.0)	2019-02	坂口悠介	活性型ビタミンD製剤介入効果のALP値による層別解析	2019-04	古志衣里	透析患者におけるリンの経時情報活用による循環器病発症リスクの推定研
整理番号	応募者	課題名												
2019-01	井関邦敏	透析液 Ca 濃度と生命予後 (2.5 vs. 3.0)												
2019-02	坂口悠介	活性型ビタミンD製剤介入効果のALP値による層別解析												
2019-04	古志衣里	透析患者におけるリンの経時情報活用による循環器病発症リスクの推定研												
<p>研究成果 (論文、学会発表、雑誌掲載等)</p> <p>課題番号 2019-01 は 2021年10月日本腎臓学会西部大会で報告した。</p> <p>課題番号 2019-01、02、04 のいずれも論文投稿中で、2022年3月末時点で2課題は revision 中。</p>														